

2023.10.1

窓 KEI SO

30

東大阪大学・
東大阪大学短期大学部
附属図書館

他山の石、以て玉を攻くべし

他山之石、可以攻玉〔詩経〕

（他の人の行いを参考にして、自らを反省し、向上に努めること。元の意味は「他国の山で産出した質の悪い石であっても、それを砥石として使えば自分の宝玉を磨くことができる」。「他山の石=粗悪な石」の意のため、この場合の「行い」は、善行ではない。）

研究室訪問



副学長 実践食物学科 教授 源 伸介

神戸大学大学院自然科学研究科（食品及び栄養学分野）にて学術博士を取得後、企業等にて約15年、大学にて約25年食品の研究・開発や教員として勤務した経験をもとに講義を行っています。

— 記憶の中、最初に自分で買った本は何でしょうか？
先日お亡くなりになった畑正憲（ムツゴロウ）氏の『われら動物みな兄弟』です。その後も買い続けたムツゴロウ氏の数々の著書が現在の道に進むきっかけとなりました。

— 最近買った本は？
地球の歩き方BOOKS『世界のカレー図鑑』です。世界の101の国と地域のカレー&スパイス料理を、それらの特徴や食材から食の歴史、文化、風土、習慣まで、食にまつわる雑学とともに徹底解説されています。

— 好きなジャンルは？
歴史小説・時代小説です。ヨーロッパ物の塩野七生、中国物の宮城谷昌光や塚本青史、和物の司馬遼太郎や池波正太郎あたりは殆ど読んでいます。

— 本を買う時、ネット書店と本屋と、どちらをより多くご利用でしょうか？
本屋で目について、実際に手に取ってから買うことが多いです。広告などで見かけて、いきつけの本屋においてなかった場合はネットで注文します。

— いま、お手元に読んでいる本は？
森護著『英国王室史話（中公文庫 上下2巻）』です。5月に行われたチャールズ三世の戴冠式をきっかけに読み返しています。イギリスの歴史だけでなく国王とはどのような存在なのか、プリンス・オブ・ウェールズとは何かなど興味深い内容が著されています。

— 時々読み直す本はあるでしょうか？
先に挙げた歴史小説・時代小説は何度も読み返します。小説に描かれた登場人物や事柄にゆかりの地を訪ねた後に読み返すと、今まで気が付かなかった新しい発見や理解が得られることがあるので、これも楽しみの一つになります。

— もし蔵書の中一冊だけ選ぶなら、どの本を選びますか。その理由は？
J・R・R・トールキンの『指輪物語（全三部）』です。すべてのファンタジー分野のアニメ、映画やゲームの基礎となっている作品です。この作品から派生した作品もあり、映画化もされているので名前だけでもご存じの方がいるかと思えます。でも、一冊じゃなかったですね。

— 読書の醍醐味は？
読書は自分自身の知識が広がるだけでなく、本の内容から世界感が広がります。また、読書に集中することで心身をリセットすることができます。

— 座右の銘をお教えください。
「医食同源」です。食という字は、人を良くすると書きます。正しく食べることで健康を保ち、病気になることを防ぐことができます。また「源」という字が含まれているのもお気に入りです。

— 学生にぜひ読んでもらいたい本は？
あえて漫画から選ばせてもらいます。宮崎駿著『風の谷のナウシカ』です。本作品を映画でしか知らない皆さんにはぜひ読んでいただきたいと思えます。あらためてSDGsについて考えるきっかけになると思います。

— 読書について、学生へのアドバイスをお願いします。
多くの作品に触れることも大切ですが、一人の作家の作品を徹底的に読むという読書の仕方もあると思います。自分のペースに合った読書の仕方を探してみてください。



読書の思い出

実践保育学科 講師 後藤 由美

久しぶりに図書館に行った。仕事

柄、絵本を探すことが多いが、たまたま通りがかった「児童書」のコーナーで懐かしい本を見つけた。『怪人二十面相』、江戸川乱歩のシリーズ物『少年探偵』の一冊である。このシリーズに夢中になったのは中学生の時であった。当時私の通う中学は口の字型に建築された木造校舎で、その角に図書室があった。室内は薄暗かった記憶があるが、それはこの『怪人二十面相』の世界観と記憶が重なるからかもしれない。入り口からまっすぐ突き当たりまで行った一番奥の本棚にそれらの本は並んでいた。3〜4センチの厚みがあるハードカバーの本だった。私は、毎朝登校すると一番に図書室に行き、前日の放課後に借りた本を返却し、ワクワクしながら新たな本を借りた。休み時間も昼休みも、実は授業中も机の中に本は広げられていて読んでいた。面白くて止められなかったのだ。放課後また新しい本を借り

て、宿題もそこそこに読み続けた。この生活を繰り返したから、全二十六巻を約2週間で読み切ったことになった。その後、同じ棚に並んでいたルパンシリーズにも手を伸ばしたが、これは2冊ほどで読まなくなった。そこで私の図書室通いは終わった。何がそんなに面白かったのかうまく説明はできないが、ドキドキしながら味わった独特の江戸川乱歩の世界にすっかり魅せられていた。私の推理小説との出会いであった。

考えてみると、私は子どもの頃より読書が好きであった。おそらく乳児の頃から、幼稚園教諭をしていた母の読み聞かせが始まっていたおかげだろう。憶えているはずもないが後に見せてもらった絵本『おやすみなさいのほん』（マーガレット・ワイス・ブラウン文・福音館書店）は、セロテープで補修されボロボロであった。毎晩読んでもらっていたらしいその絵本は、今も実家の本棚にある。自分で読んだ

本の記憶は、小学校に入ってから始まる。それは、どうやら夏休みの「読書感想文」と関係しているらしく、課題

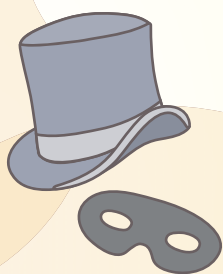
図書を買ってもらい、夏の終わりに机の前に座った思い出と重なる。確か『ないたあかおに』だった。きっかけはどうであれ、それから私は、家にあった児童書を片っ端から読んでいたように思う。『ももいろのきりん』『らいおんみどりのにちようび』『ながくつしたのピッピ』『エルマーのぼうけん』『ドリトルせんせい』『十五少年漂流記』……。たまたま自宅にあったのか、タイミング良く買い与えられていたのかは定かではない。そして、中学校の図書室で『怪人二十面相』の本と出会うことになる。

受験も一段落し、その後私の読書タイムは、自宅から片道2時間かかった大学への通学電車の中となった。その頃読んだのも、やはり推理小説だった。赤川次郎に始まり、西村京太郎・内田康夫・アガサクリステイ。電車の

中でも読みやすい文庫本を、通学途中に紀伊國屋で購入した。就職後は車通勤になり、ゆつくり本を読む時間が取れずにいるが、電車で出張に行く時には、店頭で新刊の文庫本を一冊購入して乗車することになっている。文庫本も高くなったなと思いつつ、今は東野圭吾がお気に入りだ。これも推理小説である。

本は、ひととき現実世界から逃避させてくれる。どんな小説も、夢中になって読み進むうちに登場人物の人生を体感するのだが、推理小説は、パズルのピースをはめ込むように一つ一つの事実が明らかにされていく過程が面白い。そして、必ず事件は解決する。その結末にほっとすることで、自身の気持ちも落ち着く。だからまた、読むのかもしれない。

図書館で『怪人二十面相』を借りてみた。時間を見つけて読んでみようと思う。推理小説が好きになった原点に出会えるかもしれない。



2023年度

図書館開催イベント



2023年度 前期「学生選書」

※6月30日(金)～7月5日(水)開催

今回、Webのみの開催となりました。8名の学生が参加、計40冊の本を選びました。図書館1階閲覧室の「学生選書コーナー」に並んでいます。貸し出しも可能です。

Selected Books

- 1 『家守綺譚』
妖系の好きな人におすすめしたい。
- 2 『眠れなくなるほど面白い栄養素の話』
このシリーズの他の本を読んで、分かりやすくて面白かったのだ。
- 3 『夢をかなえるゾウ』
行動できるマインドがつき、自然と自信を持てるようになる本だから。この本は人を動かしてくれるんですよ！

- 4 『くもさんおへんじどうしたの』
動物たちがしゃべるような世界観だが、同時に残酷な生存競争もある。
- 5 『1人1台端末を活用した授業づくり』
今の時代に合わせて、ICTを活用した授業づくりを学びたいと思ったため選びました。
- 6 『静脈栄養のレシピ』
学校の課題レシピを考えないといけなかったことがあったので図書館にあったら便利と思い選書しました。

1階 絵本展示コーナー

図書館1階閲覧室では、季節や行事に応じた図書館所蔵の絵本を紹介するスペースを設けています。7月には図書館新着の絵本を紹介しました。人気の作家さんの本や初めて目にする絵本等、1階閲覧室で探してみてください。



リサイクルブック

5月22日より6月30日までリサイクルブックを1階閲覧室前にて開催しました。雑誌や教職関係の月刊誌等、2年間の保存期間が終了した雑誌を並べて学生が自由に持ち帰られるようになりました。「リサイクルブック」は年に一度、開催しています。



2023年後期イベント情報

●手作り絵本コンクール

締切日：10月31日(火)

布や仕掛け絵本など
いろんな絵本を
お待ちしております。

現在
受付中!

●後期「学生選書」

書店選書：11月30日(木)

Web選書：12月1日(金)
～12月6日(水)

自分が選んだ本が、図書館に並びます。

●読書感想文コンクール

締切日：12月22日(金)

感想文を書いて
みませんか?

現在
受付中!

新着図書案内



『アジア人物史』

(請求記号 282.08/A27)

出版：集英社
総監修：姜 尚中

『アジア人物史』(全12巻+索引巻)は、集英社創業95周年の記念企画として、2022年12月より刊行を始めた壮大な歴史絵巻である。最初に配本された第7巻『近世の帝国の繁栄とヨーロッパ』と第8巻『アジアのかたちの完成』を皮切りに、その後、第1巻『神話世界と古代帝国』(2023年1月)、第2巻『世界宗教圏の誕生と割拠する東アジア』(同2月)、第10巻『民族解放の夢』(同3月)、第11巻『世界戦争の惨禍を越えて』(同4月)とほぼ月一冊のペースで続刊し、2023年8月まで計8巻が発行されて、2024年10月に完結を迎える。

アジア地域の古代から今日まで網羅した評伝『アジア人物史』は、15年も前の2007年より構想が練られ、政治学者姜尚中が総監修をつとめ、編集委員に名高いアジア史研究者が名を連ね、そして170人超の専門家を起用して、執筆担当者の選定だけで、1年近くもかかったという。

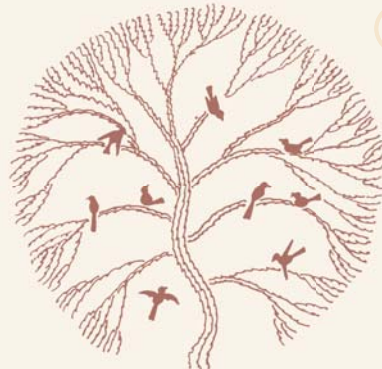
装丁も美しい。表紙を眺めるだけで心が和む。また、全巻書下ろしも『アジア人物史』の特色の一つである。アジア地域における幅広い

ジャンルの人物を体系的に取り上げられていて、その数は3,000人を超え、人物事典としても使える。

既刊の第1巻『神話世界と古代帝国』では、古い時代の人物が登場する。遠い昔のことで難解だと思われがちだが、劇的な描き方で、読者に刺激を与える。また、第11巻『世界戦争の惨禍を越えて』では、「外地」にあった旧「帝大」——京城帝国大学と台北帝国大学の組織と関係者を詳しく紹介している。未刊の最終巻第12巻『アジアの世紀へ』では、版元集英社の紹介によれば、ブルース・リー、水木しげるなど、映画、漫画分野で活躍した有名にもスポットを当てる予定で、楽しみがますます増える。

このように、『アジア人物史』は一種のアジア通史で、アジアの広大な領域を駆け巡りながら、アジアの政治家、経済学者、文学者、芸術家等々、様々なジャンルの個性豊かな人物のドラマを語っている。まさしく『アジア人物史』は悠久なるアジア地域の歴史を俯瞰できるアジアの貴重な共通財産で、アジアの他の国と地域での翻訳出版を期待している。

各巻はいずれも800頁を超える分厚い本だが、目次から興味のある人物の箇所をめくり、読み進めているうちに識見が増え、新たな知識欲が湧いてくることを保証する。



窓窓

30

2023年10月1日発行

編集・発行

東大阪大学・
東大阪大学短期大学部
附属図書館

大阪府東大阪市西堤学園町3-1-1

TEL 06-6788-2128

FAX 06-6788-2128

http://www.higashiosaka.ac.jp/~library/

